



佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



2年間の集大成「研究成果発表会」

2月13日(木)に、佐賀県教育センターで学校教育学研究科(教職大学院)のM2(2年生)による『研究成果発表会』が行われました。今年度は、第1部にシンポジウムがあり、第2部は授業実践探究コース、子ども支援探究コース、教育経営探究コースに分かれ、探究実習を積み上げて実践した成果を報告する発表会がありました。それぞれの会には、県内の市町教育委員会の先生方や連携協力校の校長先生方、センター所員の方など多数ご参加いただきました。私たちM1は会場準備や分科会の設営など、先輩方のサポートを行いました。

◎第1部 シンポジウム「佐賀県における教師改革の可能性—必要とされる教師の資質—」

中島秀明教授の基調提案は、2030年を見据えた佐賀県の教育のこれからを問うもので、教育の「不易と流行」を見極め、教師として何ができるか考えることができました。

パネリストとして登壇された1期生の先輩お二人からは、院生の方に学んでおくべきことについて話していただきました。



◎第2部 各コース「研究成果発表」

《授業実践探究コース》

授業改善の視点の一つとして依拠した理論と、それを基に取り組んだ授業実践についての成果と課題について発表を行いました。参観された方々から多くの質問があり、M1は来年に向けて大変参考になる時間となりました。(H)



《子ども支援探究コース》

本コースでは、現在の学校現場が抱える課題を解決するために、特別支援教育の視点を取り入れた研究の成果発表でした。子どもの教育的ニーズに応じた支援を具体的に実践されたり、学校全体の支援システムを構築されたりする中で、その両輪が効果的に働くことの大切さを改めて感じました。発表への質問等も含めて、M1自身の研究との関連を意識しながら学ぶことができました。(N)



《教育経営探究コース》

勤務校の課題から研究テーマを見出し、研究に取り組まれていました。教員同士の同僚性を高めるためには、教員の動機付けや協働体制を構築することが大切だと感じました。また、組織マネジメントにはミドルリーダーの役割が重要であることも分かりました。(K)



今まで
ありがとう
ございました!

研究成果発表会終了後には慰労会を行いました。M2の先輩方からの思い出話や私たちM1に向けて、多くのアドバイスをいただきました。来年度の実践に向け、身の締まる思いがしました。編集者 M&H